



ブラジルから来た

UM SENHOR DO BRASIL visitando brasileiros no Japão

おじいちゃん

A Grandpa from Brazil

スタディガイド

A Grandpa from Brazil

監督 栗原奈名子

ヴァージョン J1.1



<http://nanakokurihara.com/>

監督からの手紙

紺野堅一さんとは、1976年に父の出張についてブラジルへ行ったのがきっかけで知り合いました。紺野さんは父の親友のおじさん。お友達がブラジルに初めて行く父におじさんを紹介してくださったのです。

当時、私は政治学を専攻する20歳の大学生でした。サンパウロの街を案内しながら、紺野さんは、初めての海外旅行に興奮する私に、ブラジル移民の話をしてくださいました。移民の歴史を知らなかった私にとって、聞くのが辛いような話もあり、そんな厳しい体験を経た人自身から耳にすることに衝撃を受けました。一方、二人で世界の政治や経済について意見を交わすのはとても楽しい時間でした。40歳以上の年齢差にも関わらず、私たちは友人となりました。

ブラジルの人たちの暖かいもてなしを受け、たった2週間で日本に帰るのはもったいなくなりました。そんな私を、紺野さんは自分の家族と一緒に過ごすよう家に招いてくれたのです。私は紺野さんの家で、今で言う「ホームステイ」をしました。ブラジルの食事を家族と食べ、週末には紺野さんの末娘ネリーさんにサンバを踊りに連れてってもらいました。楽しい日々は、あっという間に過ぎていったのです。

日本に戻ってからは紺野さんと文通するようになりました。当時、スカイプやEメールはありません。国際電話の通話料は目の飛び出るような高さでした。

その後、しばらく連絡が途絶えていた時期がありましたが、2003年に、今度は自分自身の仕事でブラジルを訪れる機会ができました。紺野さんに電話したところ、彼は私が泊めてもらった同じ家に住んでおられたのです。お訪ねすると、毎年一ヶ月日本に出かけていると言うのです。飛行機だけでも26時間かかります。90歳を超えた人がそんな過酷な旅を毎年!? 元々、彼の人生についてまると知りたいたいと考えていた私は、旅にお供して、日本での活動を追いながら、話を聴こうと思い立ちました。

この旅で、予期した以上に、彼がどんな人物であるか、そして、日本の歴史について知ることになったのです。

ブラジルから来たおじいちゃん
監督 栗原奈名子



ブラジルから来たおじいちゃん



ローカル線で日本を旅する紺野堅一さん



サンパウロの自宅近くを歩く紺野さん



サンパウロで撮影中の栗原監督とエリオ・イシイカメラマン

目次

- 🐢 監督からの手紙 —— 2
- 🐢 概観 このスタディガイドの説明 —— 4
- 🐢 紹介『ブラジルから来たおじいちゃん』 —— 5
- 🐢 対象になる人々 —— 6
- 🐢 対象科目 —— 6
- 🐢 映画を理解するための背景知識
 - ・戦前の日本からの移民 —— 7
 - ・ブラジルでの日本人 —— 8
 - ・日本への逆移民 —— 9
 - ・日本における日系人とその家族 —— 10
- 🐢 教室でのグループワーク —— 11
- 🐢 討論への一般的問いかけ —— 12
- 🐢 討論を促すための詳細な質問 —— 12
- 🐢 映画鑑賞後のプロジェクト —— 14
- 🐢 参考資料 —— 16
- 🐢 クレジット —— 18
- 🐢 映画を手に入れる —— 18



年齢の差はあっても心は通じ合う



移民百年で沸く
サンパウロの日本人街



市で薬草を売る女性たち



概観

このガイドでは、クラスやグループでブラジル移民一世の紺野堅一さんが主人公である『ブラジルから来たおじいちゃん』を鑑賞します。学生や参加者は、日本からブラジルへの移民の歴史と日系ブラジル人の「逆移民」について学び、小グループに分かれて、あるいは全体で先生等の司会による討論を行ないます。ブラジル移民や「逆移民」についての背景的情報については、背景と参考資料の項をご覧ください。上映前に背景的知識を学生、参加者に読んでもらえれば、映画への理解がさらに深まります。



ブラジルから来たおじいちゃん

紹介 『ブラジルから来たおじいちゃん』

『ブラジルから来たおじいちゃん』は1931年にブラジルに移民した、92歳の日本人、紺野堅一さんの旅のドキュメンタリーです。映画は紺野さんの物語を追いつつ、作品は日本からブラジルへの移民の歴史、そしてブラジルから日本への「逆移民」の現状をたどります。

紺野さんは、故国の経済危機を逃れるために19歳の時に単身ブラジルへ渡りました。大恐慌を受け、日本政府は人口過剰の圧力を減らすために海外へ自国民を送る政策をとりました。ブラジルでのより良い生活を約されて、若き紺野さんは移民を唯一の選択と考えたのです。

努力と幸運のおかげで、今では様々な国にルーツをもつ人々からなる大家族のおじいちゃんになりました。長い人生の最後に平安を得た紺野さんですが、他の人たちが今も彼が昔、戦った闘いを続けているのを忘れていません。特に、より豊かな社会を目指して、ブラジルから日本へ渡った日系ブラジル人に関心を寄せています。

日本を訪れ、紺野さんは「新」移民が彼らの抱える問題や夢を語るのに耳を傾け、彼らにアドバイスをします。子どもたちの学校の先生たちに会いにも行きます。また、青年時代の思い出の場所を訪れ、自らの人生の喜びや悲しみを振り返ります。

この時宜を得た、心暖まる物語は、一見普通にみえる一人の男性のたぐいまれな旅を追います。

関心を深めるためのツールとして、ブラジル移民の歴史と逆移民についての対話へのきっかけを提供します。



ベットの亀に話しかけるロベルトさん



子どもたちに自己紹介



ドグラス君に学校について尋ねる



対象

高校、大学の授業や学生の自主活動グループ、図書館のような、教育や生涯学習を進めることを目的とする地域の団体、移住の問題を扱う組織、国際交流協会、ブラジルに関心のある人たちのグループ



対象科目

ブラジル、社会科、グローバリゼーション、歴史、多文化主義、多文化共生、国際交流、トランスナショナル文化、移住、移民、教育、グローバル市民、異文化間コミュニケーション



子どもたちに移民の歴史を伝える



サンパウロの日本人学校の生徒たちを前に

映画を理解するための背景知識

戦前の日本からの移民

江戸時代(1603～1867)に、日本は幕府の鎖国政策のもと、海外から閉ざされた状態にありました。貿易は最小限に抑えられ、内外との人の行き来も2世紀半の間、ありませんでした。そこに、1854年、アメリカ合衆国のペリー提督が日本に開国を迫りました。鎖国時代に産業の発展が限られていた日本は、突然急速なペースで近代化を始めたのです。この急激な変化は大名たちの封建制度を弱体化させ、1868年の明治維新へと至らしめました。

新政府は医学、公衆衛生、農業における省力化技術など近代的進歩を取り入れ、その結果、日本の人口は一挙に増加。まもなく田舎では、農地で支えられる以上に人の数が増えました。加えて、多くの農民は、都市での生活水準を改善し、大規模な軍隊を支えるために費やされる高額な地租税を払うことができませんでした。新しい産業での仕事を都市に求めて、田舎を離れる者もいました。しかし、すべての人々に行き渡る仕事はありません。社会を不安定化させるおそれのある人口増加に直面した日本政府は、他国への日本人移民を推進するようになったのです。

ハワイへ

日本政府は、1885年から1894年の間にハワイの砂糖黍や果樹農場で働く契約労働者、約3万人を移民として直接送り出しました。その多くは、商売を始めるためや農地を買うのに十分な貯蓄をしたら、数年後に日本に戻るつもりで単身の男性たちでした。1894年に政府が移民会社による海外移民を許可した結果、以降、移民の数は増えました。世紀が変わるまでに多くの人たちがハワイに移民したのです。しかし、中にはオーストラリア、ペルー、メキシコに渡った者もありました。これらの労働者も、一般に入植者ではなく、雇用者との労働契約を終えた後に日本へ戻るつもりでした。ところが、米国が1898年にハワイを併合し、契約労働を非合法化した時に、日本人移民は日本に戻るか、自由な移民としてハワイを離れるか、アメリカ本土に定住するかを選択肢を与えられました。賃金が高かった本土に定住することを選んだ人が多数でした。しかし、これもカナダ、米国との二つの「紳士協定」が日本人移民を抑制するまでのことだったのです。

北米が新規の日本人移民を歓迎しなくなったため、日本政府は日本人を喜んで受け入れてくれる国への移民を目指すようになりました。ペルーとメキシコも小さな日本人コミュニティに対して非友好的だったため、日本は1907年に、奴隷解放によりコーヒー農園で奴隷に代わる労働者を必要としていたブラジルと協定を結びました。ブラジルへの移民の多くは、家族とともに移住し、結果的に日本に戻りませんでした。実際、1908年から1933年までのブラジルへの日本人移民、約14万人のうちの93パーセントが同地に留まりました。ペルーに渡った日本人移民も日本に戻ることはありませんでした。2万人弱の日本人がペルーでの契約労働に登録しました。田舎では労働状況は過酷で、大半の人々がより良い機会を求めてリマへと移り住みました。

南米へ

時がたつにつれ、ブラジル政府は次第に日本人の流入に不安を抱くようになりました。1934年にはブラジルも日本人移民を抑制し始めたのです。今度は、日本は満州を新しい移住先としました。満州は現在、中国の東北部ですが、1931年、日本軍は同地域を占領し、少数の国にしか認められなかったにも関わらず、翌年、満州国の独立を宣言していました。日本は軍事上、外交上は有効な支配を敷いていましたが、権力を確固としたものにするにはより多くの日本国民を必要としていたのです。政府は1932年に試験植民を始め、植民を支援し、1936年にはついに「百万戸送出計画」へと進展させていきました。1938年には、満州に在住する日本人の数は、ブラジルの17万人を超える42万人に増加していたのです。1945年に日本が太平洋戦争に敗北した際には、事実上これらすべての日本人が満州から追われました。その結果、ブラジルと米国が日本国外で最大の日系人人口を擁することとなったのです。

綿畑を耕す紺野さん



洗礼式での紺野さん



ブラジルでの日本人

大半の日本人移民(日系人＝市民権あるいは生地に問わず、外国に住む日本の血統をひく人たちが)がブラジルの岸壁に降り立ちました。初期の移民たちと同様に、彼らも数年後に日本に輝かしく帰国することを夢見ていました。しかし、大多数にとってこれは現実とはなりませんでした。そのかわりに、日本人は自らのハイブリッドな文化を発達させながら、ゆっくりとためらいつつ、移民からなるこの国の構成員となっていくたのです。過酷なコーヒー農園での労働から間もなく自らの土地を買い、独立農民となりました。仕事は厳しいものでしたが、女性や子どもたちもおり、自分たちのコミュニティを作ることができたのです。

孤立するコミュニティ

しかし、このコミュニティは、他のブラジル人たちからは孤立していました。日本政府は日本人学校、日本語新聞、農業協同組合の設立を助成。1932年にはサンパウロ州に二百もの日本人学校が存在していました。日系人はブラジル社会に溶け込もうとはしませんでした。ポルトガル語を学ばず、ブラジル人と結婚しようとしなかったのです。ブラジルで生まれた子どもたちの多くですら、自らをブラジル人というより日本人だと考えていました。

戦後の統合

このことは、日本人コミュニティが第二次世界大戦によって、特にブラジルが日本と敵対する連合国に加わって以降、深く影響を受ける事を意味しました。日本軍が真珠湾を攻撃した後、ブラジルは日本との外交を断絶し、日本からの新規移民受け入れを取りやめました。以前から、ブラジルは、日本人学校を閉校し、日本語新聞の発行を停止させて、すでに在住している日本人を無理矢理同化させようとしていましたが、これも限られた効果しかありませんでした。開戦後は、さらに枢軸国民の公共場所での自国語の会話の制限や私宅内での集合の禁止など、厳しい制限が加えられました。ブラジルへの公式な移民は、第二次世界大戦が終わって7年後の1952年になるまで再開されなかったのです。

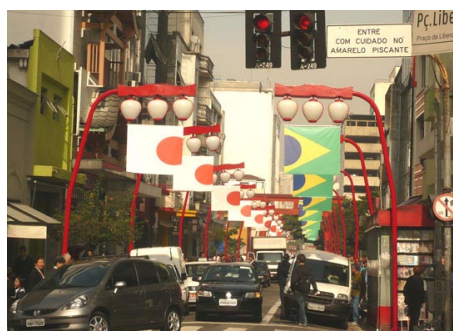
しかし、その後十年にわたって、37万4千人の新移民がやって来ました。しかし、この数は、日本「経済の奇跡」によって祖国でも十分な機会が得られるようになった1960年代には減少しました。それにも関わらず、日系人コミュニティは倍増し続け、ブラジル社会により統合されるようになりました。戦後、たとえば、日系ブラジル人は他のブラジル人と結婚するようになりました。2006年にはブラジルの日系ブラジル人人口は200万人まで増加したのです。多くが中流階級となり、教育熱心で、様々な分野に進出し、ブラジル社会で信用を得ています。



パステウというスナックを手作りする



市のパステウ店



日本人街は今では東洋人街に変化している



揚げたてのパステウは、みんなの好物



日系人のお店にはお稲荷さんやおまんじゅうも



ブラジル製羊羹



お豆腐も売っています

日本への逆移民

日本経済が1980年に活況を呈すると、日本は過剰労働ではなくその逆の問題に見舞われるようになりました。近代日本は第二次世界大戦中を除き、労働力不足に悩んだことはなく、大規模な移民受け入れ政策を考える必要はありませんでした。たまりかねた製造業の大企業が移民への文化的抵抗を克服したのですが、それでもなお企業や政府の指導者たちは外国人を日本に招いて住まわせることに神経をとがらせていました。そこで、彼らは同化しやすい集団を探しました。この必要を満たすため、彼らは海外の、ブラジルやペルー、その他の国の日本人コミュニティに向かったのです。1990年の入管法の改訂によって、日系人二世、三世とその配偶者が3年毎に延長可能なヴィザを持つ定住者として、日本に滞在し、働けるようになりました。一般に外国人は工場労働のためのヴィザを得ることはできませんが、これらの「逆移民」たちは非熟練労働にも就くことができたのです。かくして工場側の要望どおりの労働者となりました。

ブラジル経済の停滞

ブラジル経済は80年代を通じて停滞していました。ブラジルから、ペルーから多くの日系人たちが高い賃金を稼ごうと、このチャンスに飛びついたのです。多くの人は短期滞在を望んでいました。実際、短期でブラジルに帰った人たちも多数いました。しかし、これらの帰還者の中には日本に二度、いや三度、四度と働きに戻って来た人もいます。出入国が自由な、特別なヴィザによって、彼らは日本の産業にとって好都合な、必要な時だけ使えるオン・デマンドの労働力となったのです。

二つの前提

日本の政策は二つの前提の元に成り立っていました。1 日系人は日本の血統なので、日本的なやり方に同化しやすい。2 日系人は一時的な短期契約の間だけ滞在し、その後、ブラジル、ペルー、フィリピンなど、出身国に帰国する。二番目の前提は多くの場合、事実だったとも言えますが、最初の前提はまったく異なっていたことが明らかになりました。多くの日系人は日本人の顔をしていますが、行動はそうではありませんでした。むしろ、かれらの態度、価値観はブラジルのだったのです。日本語が話せず、日本の習慣にも不慣れな日系ブラジル人たちが、コスモポリタンな大都市と比べて多様性に寛容とは言い難い、工場のある田舎町に定住する場合が大半でした。このために、すべての「逆移民」に、数年間だけ日本で働くだけの者にも、日本永住を決めた者にも、大きな課題が生じました。



体験から得た教訓を若い世代に伝える



紺野さんの一家、レストランにて



お孫さんと一緒に

日本における日系人とその家族

2010 年時点で、日本には約 23 万人の日系ブラジル人が暮らしていました。これは日系ブラジル人の 8 人に一人が日本に住んでいる事を意味しています。80 年代に成長が飛躍した時に、日本は厳しい労働力不足に見舞われました。歴史的に移民受け入れを厭う日本政府は、非熟練労働を日本人に限定してきました。工場の労働者不足に、政府は 1990 年に妥協で応えたのです。日本人の親や祖母をもつ外国人は、非熟練労働者として働くことを許されるようになりました。ブラジル経済は 80 年代を通じて停滞し、ブラジル(やペルー)の多くの日系人が高賃金を稼ごうとこの機会に飛びつきました。多くの人が短期間滞在を望み、事実、限られた期間滞在しましたが、重ねて来日するようになった者も少なくありません。

受け入れ態勢の問題

日系人の多くは、契約労働者で、日本人のやりたがらない、危険、きつい、きたない、いわゆる 3K の仕事に就いています。彼らの時給は日本人に支払われる額と遜色ありませんが、年金やボーナスを受け取ることはありません。日本人と異なり、健康保険で守られずに働く場合もよくあります。福祉は低いまま、危険が高い仕事に就くことが多いのに加え、日系人は教育システムでも十分なサービスを受けられていません。バイリンガル教員は少なく、学校は、家庭で日本語を話さない外国人生徒に四苦八苦しているありさまです。愛知県、静岡県、三重県など、日系人の多い地域では、地方自治体が問題を解決するために特別なサービスを提供しています。しかし、就学は日本人以外には義務ではありません。そのため多くの日系人の生徒はドロップアウトしてしまいます。教育を受けられず、最低の仕事以外にはつけない彼らの中には、軽犯罪に手を染める者もいます。しかし、もう一方で、日本社会から支援をほとんど受けられなくてもがんばる者もいます。

リーマン・ショック以降

経済危機後の経済停滞の中、多くの日系人が契約を打ち切られました。この一時的な労働過剰に日本政府は、2009 年、日系人対象の特別ビザによって日本で労働することを永久に放棄することを条件に、日系人一人につき 30 万円を帰国資金として提供しました。後に、政府は、内外からの批判があったため、その条件を永久にから 3 年間に変更しました。ブラジル経済が発展するにつれ、日系人の中には祖国での新たなチャンスを利用して、歓迎されたとは言えない日本を去る人も多数います。日本のブラジル人人口は、わずか 3 年でその 4 分の 1、8 万人以上が減少しました。しかし、多くの家族は自分の故郷となった場所を離れたくないと考えています。様々な障害にも関わらず日本に何とか適応している子どもたちを持つ家族です。ブラジルに戻ることは、日本に滞在することと同じくらい困難で、帰っても適応できずに苦勞する子どもたちが多数いるからです。様々な問題にも関わらず、彼らは日本を新たな故郷として、最善の努力を尽くしています。



記念撮影のためポーズを取る兄弟



サッカー選手になる夢を叶えたファビオ君



ロベルトさんの本音に耳を傾ける



日本で発行されているブラジル人向け新聞、雑誌



教室でのグループワーク

このモジュールの狙い

学生たちは単なる娯楽としてではなく、映画に注意を払います。
課題に関わる内容を見つける努力をしつつ、それ以外のことにも気づくことができます。
映画鑑賞直後の小グループでの討論によって、見たばかりの場面の記憶をリフレッシュさせます。
小グループの討論で、見たことを言葉で表すことにより、記憶に固着化させ、映画についてじっくり考えやすくなります。
簡単な課題で自信がつき、それに続く、より進んだ討論に取り組みやすくなります。
このモジュールは、その後の、先生がファシリテートするクラス討論へのきっかけとなります。

進め方

映画を見る前に、クラスを4つに分け、各グループに課題をひとつずつ与えます。
映画の後、すぐにグループ毎に輪になって、問いの答を話し合い、グループで統一した答えを出します。グループ毎に答えをクラス全体に発表します。
学生たちの努力をほめることが大切です。もし間違っても、優しく指摘するようにします。

課題

自分の過去を思い起こすために紺野さんが日本で訪問する場所は、いくつありますか？それはどこの町にありますか？彼は過去にそこで何をしたのでしょうか？書き出してください。

(答) 東京、横浜、神戸

東京では、出版社の見習いをし、力行会の海外学校に通った。

横浜 特になし(資料館でブラジル移民の展示を見た。)

神戸 移民収容所に滞在してから、神戸港からブラジルに出発した。

紺野さんはどういう人たちと話をするでしょうか？彼は彼らにどんな話しをしますか？

(答) 赤大路コミュニティセンターの林さんたち 一人でブラジルに行ったことなど。

滋賀の成松政行さんの家族 十分お金を貯めるまで10年間我慢しなさいなど。

彼のレストランのお客さん ブラジルに帰るかどうかを尋ねた。子どもたちのことを尋ねた。

ロベルトさん 仕事の様子を尋ねた。

ファビオくん 学校の成績はどうか。どうしてブラジル人の子どもたちは学校に行かないのかを尋ねていた。

サッカー選手になって、ブラジルに行ったらいい。

ドグラスくん 勉強しているかどうかなど。

ファビオくんの学校の先生たち ブラジル人の子どもたちの様子、いじめがあるかどうかを尋ねた。

ドグラス君の学校の先生と生徒たち 両親とも働きにいつてしまうと、子どもが学校に行っているかどうかわからない。ブラジル人の子どもたちの中には学校に行っていない子たちがいるが、を無理にでも学校に来させないといけないうなど。

紺野さんが話をした人たちは紺野さんに何と言いましたか。

(答) 成松政行さん ブラジルは楽しむのによく、日本は稼ぐのに良い。

成松ヨリコさん 今は忙しいけれど、いつか楽になる。

レストランのお客さん 息子がブラジルで学校に行っている

ファビオのお父さん、ロベルトさん 自分で事業を始めたい。

ファビオくん、大学までは出たい。サッカー選手になる。

ドグラスくん もっと勉強しなさい。

紺野さんのブラジルでの生活について。彼はブラジルでどんな仕事をしていましたか？

(答) 家庭奉公(お手伝いさん)、パン屋の見習い、ピングアの工場、農業、小売り店主、農場主

彼はお金持ちになりましたか？

(答) 中産階級

彼は仕事を楽しんでいましたでしょうか？

(答) それぞれの視点でよし。



映画を見終わった後の質問

討論のための一般的な問いかけ

- ・もし紺野さんに質問できるとしたら、どんなことを尋ねますか？
- ・他の誰に質問したいですか？何と尋ねますか？
- ・映画の中で何に一番驚きましたか？なぜですか？
- ・映画のどの部分が一番好きでしたか？どうしてですか？
- ・映画のどの部分にショックを受けましたか？なぜでしょう？

討論を促すためのより具体的な問いかけ

国籍とアイデンティティ

- ・紺野堅一さんはどこが日本人的呢でしょうか？どんなところがブラジル人的的呢でしょうか？それぞれに理由をあげてください。
- ・なぜ紺野さんは毎年日本に戻ってくるのでしょうか。
- ・紺野さんは日本に忠実でしょうか？日本は紺野さんに忠実だったのでしょうか？忠実であるかないかの例を映画の中からあげてください。
- ・なぜ『ブラジルから来たおじいちゃん』という題名がついているのでしょうか？紺野さんはおじいちゃんのように行動していますか？それは誰に対してでしょうか？
- ・映画に登場する人たちを「ブラジル人」と呼ぶのは正しいのでしょうか？そうでないとしたら、ファビオ君、ドグラス君、ロベルトさんやエリアーネさん、成松さん一家のような人たちをどう呼んだら良いと思いますか？

歴史

- ・1920年代、30年代に日本社会は大きな変化を迎えていました。そのひとつは急激な人口増加です。農民は、自らの農地では大家族を支えられなくなり、田舎を出て行かざるをえなくなることもありました。彼らはどこに行くことができたのでしょうか。
- ・紺野さんは大阪出身です。そこから彼は移住しました。彼は最初にどこに行きましたか？彼はどのようにそこに留まらなかったのでしょうか？他の人たちは同じような決断をしたと思いますか。
- ・紺野さんは東京・力行会の海外学校の農業主任の先生に何が起こったかを話します。彼は公式の発表を信じていません。紺野さんは、実際は何が起こったと考えていますか？当時、どんな政治運動が盛んだったのでしょうか？（共産主義、社会主義運動。農業主任はそういった運動に関わっていたと考えられる。）
- ・紺野さんは力行会の会長に朝鮮に行くように勧められたことを話していました。どうして紺野さんは行かなかったのでしょうか？もし行っていたとしたら、どうなっていたのでしょうか？（朝鮮は寒い、暖かいところのほうが良いと思った。朝鮮は当時、日本の植民地だった。日本が戦争に負けた時には、日本人は引揚者として着の身着のまま日本に逃げ帰ることになった。）

ブラジル人の日本社会への適応

- ・紺野さんはブラジル人の子どもたちの中に学校を辞めてしまう子がいることを知りました。子どもたちはなぜ辞めてしまうのでしょうか？日本の政策はどうなっていますか？この政策はどのような影響をおよぼしているのでしょうか？（言葉がわからない、いじめられるなどの理由。日本では外国人には義務教育は適用されない。そのため、学校に来ない就学年齢の子どもがいても放置される事態を引き起こしている。）

- ・紺野さんが訪ねたロベルトさんは足が不自由です。どこで彼は足を傷めましたか？彼はそれに対して補償を得ることができたでしょうか？
(以前働いていた材木工場で。得ることができなかった。)
- ・紺野さんは「日本人がブラジル社会に十分に根付くには三世代かかる」と語っています。移民が日本社会に根付くのにどれくらいかかると思いますか？では、ブラジルと日本ではどちらの国が根付きやすいのでしょうか？どうしてそう考えるのですか？
- ・日本人がブラジルで根付く際に直面した困難やそこでどのように受け入れられたかと、日本に戻った日系人たちが日本で直面した困難や彼らが日本でどのように受け入れられたかを比較してみてください。

あなたと移民

- ・あなたは、日本以外で生まれましたか、あるいは日本以外の市民権を持っていますか？
- ・もしあなたが別の国で暮らすことになるなら、どんな希望を持つでしょうか？どんな恐れを抱くでしょうか？
- ・もしある集団がよその国からあなたの地域に暮らすことになるとするなら、あなたは彼らにどういう期待をしますか？あなたは彼らにどんな恐れを抱くでしょうか？
- ・移民が他の土地へ向かう理由にはどんなものがあるのでしょうか？移民は彼らが移住する国々にどんな事や物をもたらすでしょう？国々がある種の人たちに一時的在住あるいは永住を勧めるのはどういう理由からでしょうか？各国政府が、外国人が働いたり、市民権を得たりしにくくするのはなぜでしょうか？
- ・ブラジル経済は、日本を含む先進国の経済が停滞しているにもかかわらず躍進しています。また、ブラジルはワールドカップやオリンピックの開催を控え、世界での地位も劇的に向上しています。多くのブラジル人が日本からブラジルに帰りました。以上のような発展は、日本に残るブラジル人たちにどんな影響をおよぼすでしょうか？また、ブラジルにいる日系人たちにどんな影響をもたらすでしょうか？
- ・日本に移民を増やし、彼らが日本の市民権を得る可能性を大きくする事にはどんなリスクが伴うでしょうか。
- ・日本に移民を増やし、彼らが日本の市民権を得る可能性を大きくする事にはどんな利点があるでしょうか。

パーソナルな感想

- ・映画はあなたの物の見方を変えましたか？どのように変わったでしょうか？
- ・他に何かコメントがあれば、自由に。

宿題

学生ひとりひとりに一般的質問に対する答えを書かせましょう。
参考資料の項にあるような読み物の宿題を与えましょう。



宿題用シート

締切 月 日



映画に関する質問

もし紺野さんに質問するとしたら、どんな質問をしますか？

他に誰に質問したいですか？ どんな質問をしますか？



映画の中で驚いたり、感動したりした場面や瞬間を記してください。その場面の何が一番あなたを動かしたのでしょうか。

エッセイに関する質問

あなたの読んだエッセイの主題はなんですか？



最も重要だと思う事実を五つ、書き出してください。

名前

学生番号

映画鑑賞後のプロジェクト

・ 横浜と神戸にある移住資料館を訪ねる。

・ 学んだことをエッセイに書いてみる。

・ オーラル・ヒストリー プロジェクト

地域に住む、海外にルーツを持つ人たちに聞き書きを行なう。

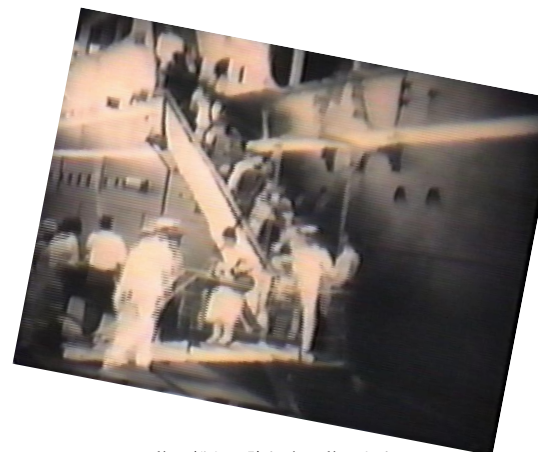
・ アート・プロジェクト 自分の身分証明書を作ろう

紺野さんは「国がなくなってしまうたら、人類に尽くすでいい。そういう時代にならなければならない」と話しています。もしそういう時が来たら、人々はどんなパスポートや身分証明書を持つでしょうか？ 次のインターネット・サイトを見て、好きな ID 五つを選んでみましょう。お互いに見せて、どうしてそれらを選んだのかを話し合ってください。そして、自分の身分証明書を作ってみてください。

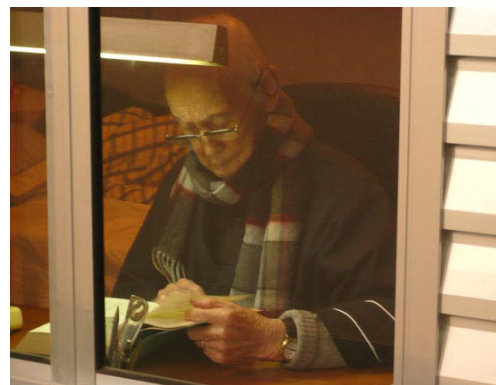
展示「あなたの証明書を見せてください」サイト

<http://yourdocumentsplease.com/pages/catalog.html>

27 カ国、270 人のアーティストが作った独自のパスポートや身分証明書の展示です



移民船から降り立つ移民たち



今も学び続ける

サンパウロの土壌は赤いのが特徴



参考資料

ウェブ上の英語の関連記事

国会図書館 ブラジル移民の百年 サイト

<http://www.ndl.go.jp/brasil/index.html>

一次資料、写真でブラジル移民の歴史を学べる充実したサイトです。

神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ 新聞記事文庫

移民および植民（人口及植民）

<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/directory/sinbun/vlist/iminl.html>

当時の新聞等で移民、移住がどのようにとらえられていたかを知ることができる目から鱗のサイト。

2010年に内閣府で策定された日系定住外国人施策に関する基本方針

<http://www8.cao.go.jp/teiju/guideline/pdf/fulltext.pdf>

<http://www8.cao.go.jp/teiju/guideline/pdf/fulltext-koudo.pdf>

日系人を社会の一員ととらえた画期的な指針です。

ブラジル人学生のエッセイ

<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/tabunka/journal/2-1.pdf>

困難を乗り越えて大学生となったブラジル人学生が日本でのこれまでの生活を振り返ったもの。ぜひ皆さんに読んでもらいたい当事者の声です。

紺野さんのブラジルでの上映会の話

広島映画館でのスカイプでの話

資料館、博物館のサイト

JICA 横浜海外移住資料館

<http://www.jomm.jp/>

神戸移住と文化の交流センター

<http://www.kobe-center.jp/index.html>

広島市デジタル移民博物館

<http://dms-hiroshima.eg.jomm.jp/>

国会図書館ブラジル移民の百年サイト

<http://www.ndl.go.jp/brasil/index.html>



元移民収容所は、今は神戸市・海外移住と文化交流センターに



関西ブラジル人コミュニティの事務所はここに



移民たちが滞在した部屋を再現

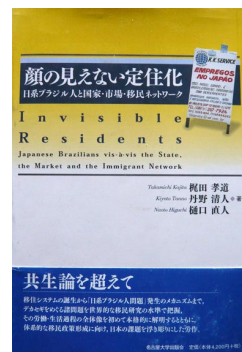


移民関連の様々な展示

書籍

高橋幸春『日系人の歴史を知ろう』岩波ジュニア新書 2008 年
ブラジルに長年住んでいた著者がブラジル移民と日本で働く日系ブラジル人についてわかりやすく記した好著。ジュニアだけでなく大人にもおすすめです。

梶田孝道、丹野清人、樋口直人『顔の见えない定住化 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』名古屋大学出版会 2005 年
日系ブラジル人の日本定住化についての研究書。深く知りたい人向き。



包括的研究、深く知りたい人にお薦め

日本にいるブラジル人、外国人

ABC ジャパン

<http://www.abcjapan.org/index.php>

ブラジル大使館

<http://www.brasemb.or.jp/index.html>

多文化共生センター

<http://www.tabunka.jp/>

関西ブラジル人コミュニティ

<http://www16.ocn.ne.jp/~cbk.bras/>

国際移住機関

<http://sites.google.com/site/sitenposabjap/>

NPO 在日ブラジル人を支援する会

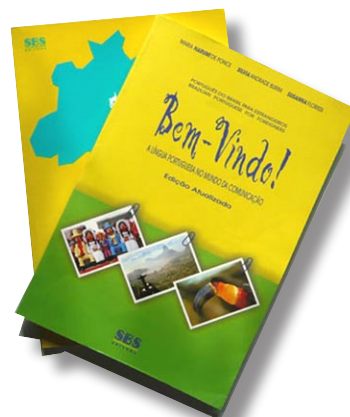
<http://www.jca.apc.org/migrant-net/Japanese/Japanese.html>

移住労働者と連帯する全国ネットワーク

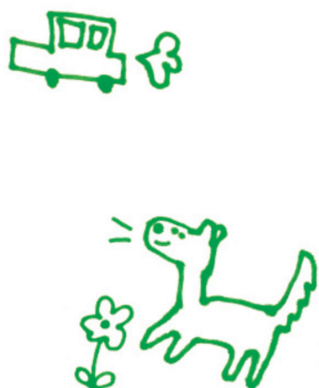
<http://www.jca.apc.org/migrant-net/Japanese/Japanese.html>



当事者に近い視点で記され、読みやすい



ブラジル・ポルトガル語の教科書



ブラジル・フェスタでの
サブリナさん(左)と
MC ペトさん

ガイド クレジット

ガイド製作者、ライター

ステファン・ダルトン 大阪学院大学準教授

栗原奈名子 Ph.D. 映画監督

デザイナー：吉田亮子 Harvest Firm Inc.

イラスト：蛇谷りえ

謝辞

以下の方たちに感謝を捧げます。

ローラ・ハイン ノースウェスタン大学教授

ダニエル・ジョージズ アーチスト、展示オーガナイザー

森本豊富 早稲田大学教授

名村裕子 立教大学大学院



撮影のエリオ・イシイと
監督の栗原奈名子

映画 クレジット

製作・監督 栗原奈名子

撮影 栗原奈名子、エリオ・イシイ

編集 斉藤貴志、今野裕一郎

音楽 道下和彦

整音 小川武、スタジオ CATS



映画の DVD 購買方法

詳細は以下のサイトをご覧ください

<http://nanakokurihara.com/>

『ブラジルから来たおじいちゃん』に関してのご質問は、
info@nanakokurihara.com までお願いします。



DVD 好評発売中

